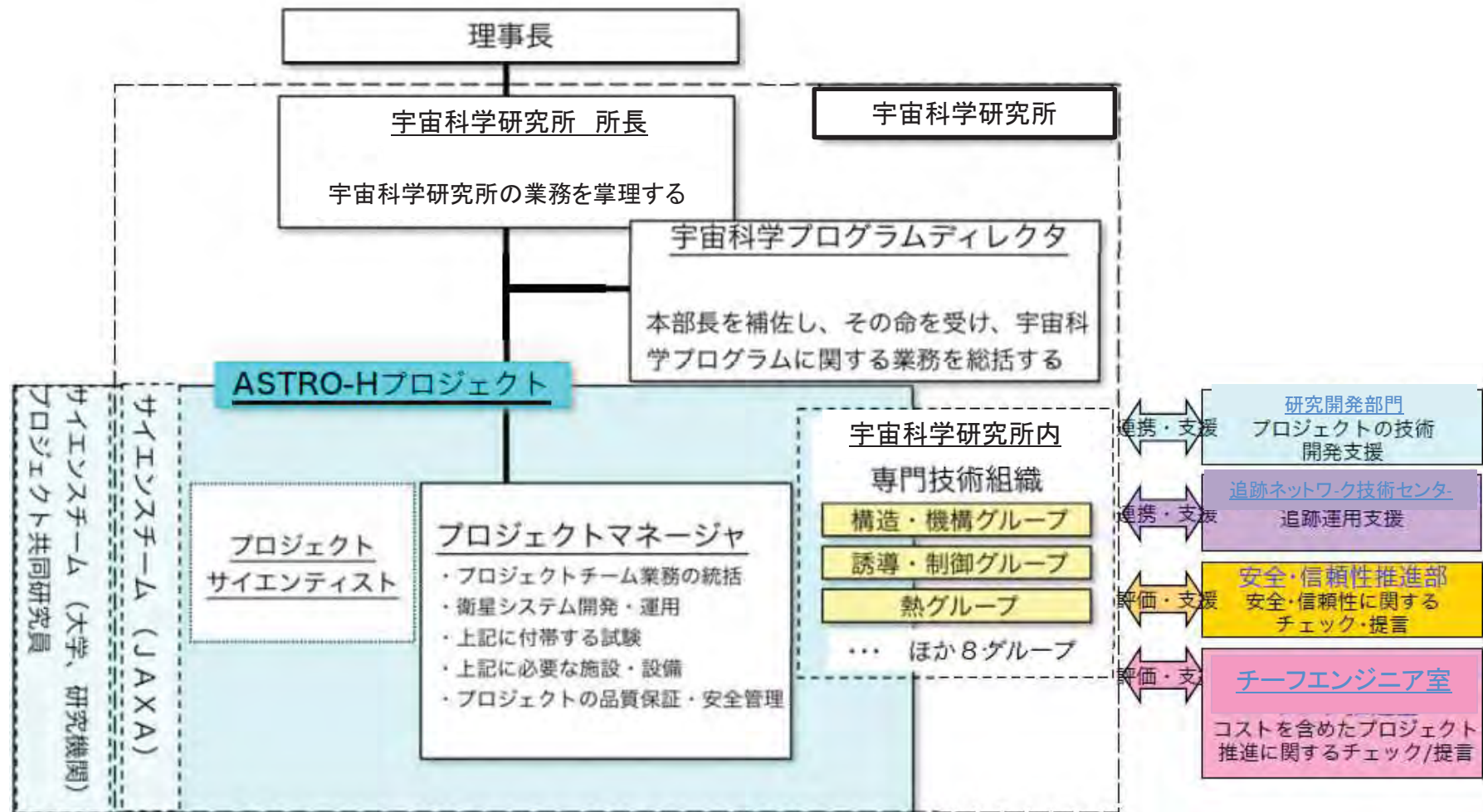


2.5 開発体制 (JAXA内)

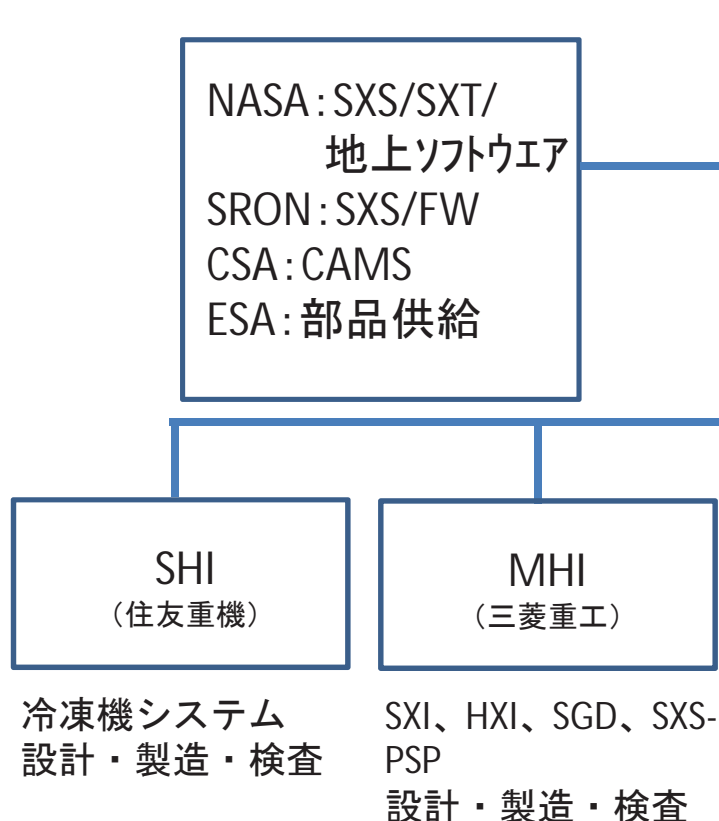


出典:平成20年7月25日 宇宙開発委員会推進部会・事前評価資料(平成20年8月26日 A改訂)より引用し、現在の名称に更新。

JAXA-他機関/企業関係図(1/3)

設計・製造(調達)・検査期間

<ミッション機器関連>



<衛星バス機器関連>

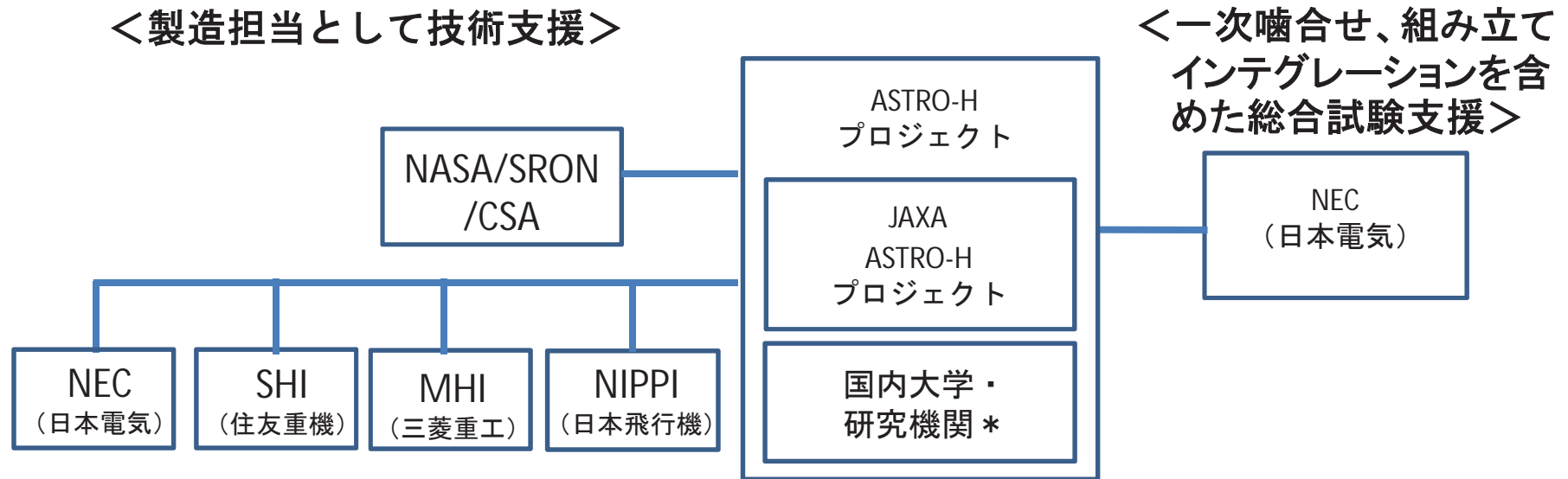
衛星バス機器(システム設計
(姿勢系含む))
設計・製造(調達)・検査



* 大学共同利用システム研究員として、
JAXA/ISASの一部をなす

JAXA-他機関/企業関係図(2/3)

衛星システム試験期間 (一次噛合せ試験/衛星総合試験)



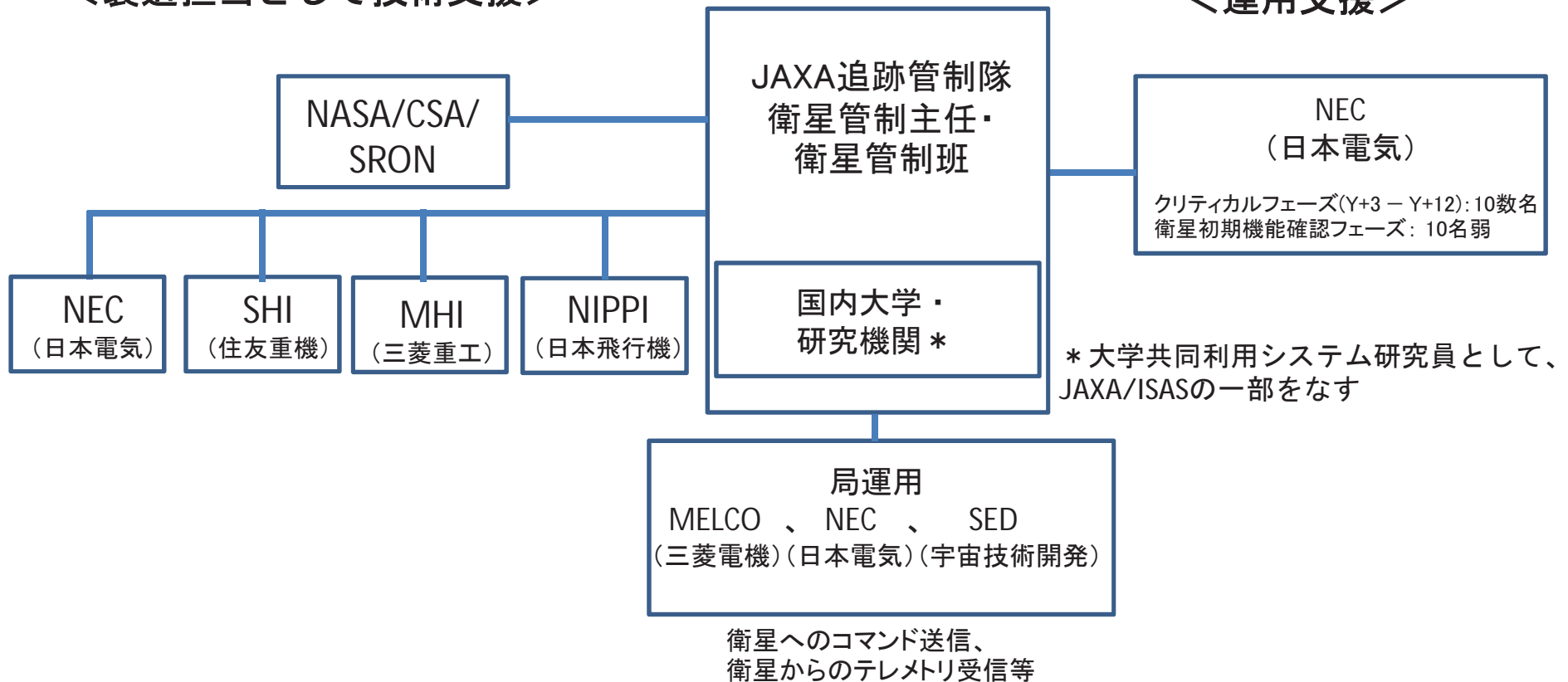
* 大学共同利用システム研究員として、
JAXA/ISASの一部をなす

JAXA-他機関/企業関係図(3/3)

フライトオペレーション・クリティカルフェーズ・初期機能確認フェーズ

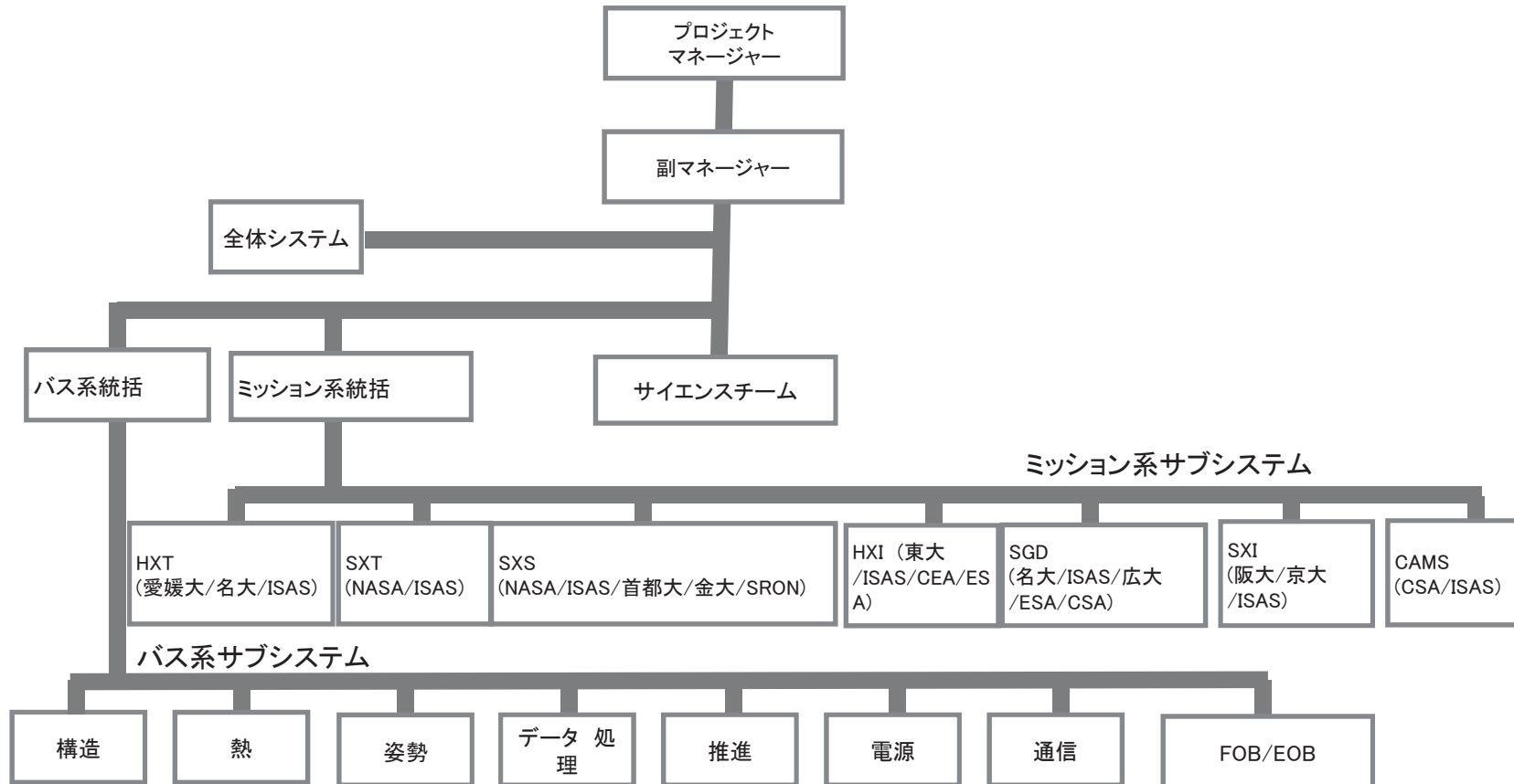
<製造担当として技術支援>

<運用支援>



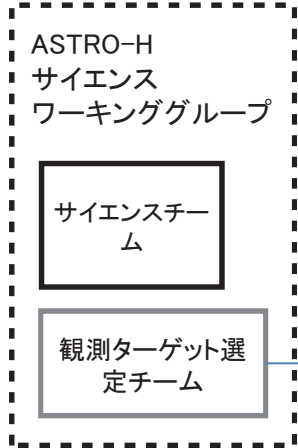
ASTRO-H プロジェクト体制図

(括弧内はミッション機器PI/SubPIの所属機関)



ASTRO-H追跡管制隊・衛星管制班体制図

(フライトオペレーション/クリティカルフェーズ/初期機能確認フェーズ)



	クリティカルフェーズ(Y+3-Y+12)	衛星初期機能確認フェーズ
JAXA	20数名	10数名

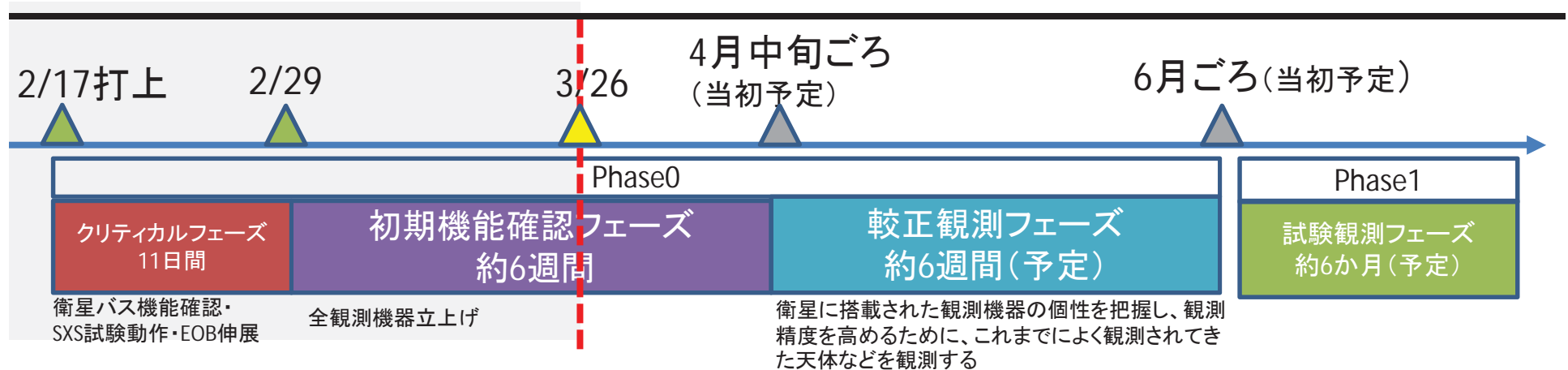
ミッション機器担当
(10数名)を除く

3. 発生事象及び地上観測結果

3.1 異常事象発生当初の運用の状況

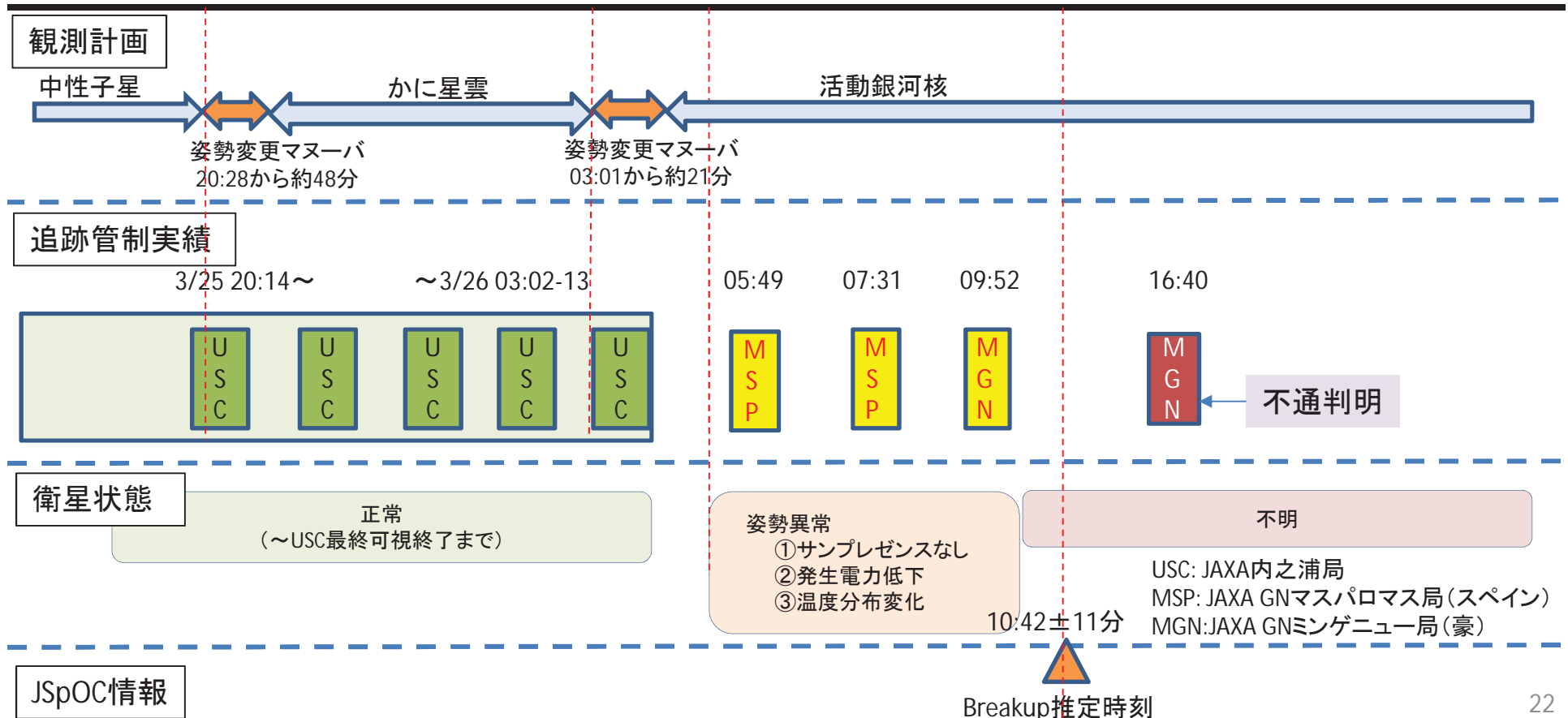
- 「ASTRO-H」は、通信不通が判明した3/26(土)時点では、全観測機器※の立ち上げを一通り完了しており、4月中旬に「較正観測フェーズ」へ移行予定だった。
- 異常判明前後の3/25(金)及び3/26(土)にかけては、次フェーズ移行に向けた準備として、複数のX線天体に望遠鏡指向し、全観測機器で試験観測中だった。

※軟X線分光検出器(SXS)、軟X線撮像検出器(SXI)、硬X線撮像検出器(HXI)、軟ガンマ線検出器(SGD)



3.2 異常事象発生当初のテレメトリデータ受信状況

- USC可視群では、コマンド・テレメトリ運用（衛星データレコーダ再生を含む）を行い、その他のMSP/MGN可視群では軌道決定のための運用（レンジング運用）のみを行う計画であった。
- USC可視群最終可視（3/26未明）以前の、非可視時間帯含む連続した全ての衛星テレメトリデータは、衛星データレコーダから再生・取得済みである。

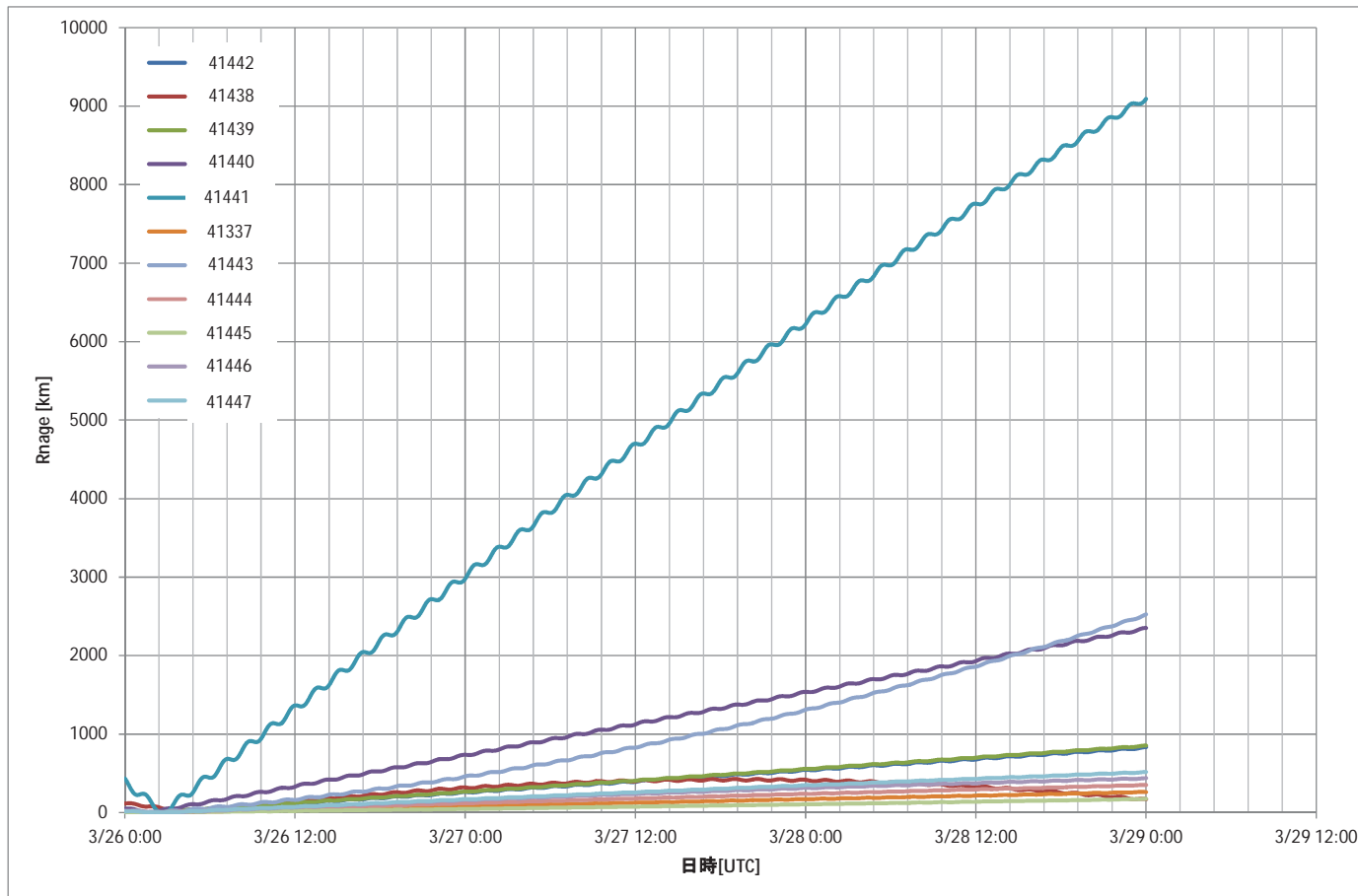


3.3 最後の4可視での衛星状態サマリ

日本時間	受信局	姿勢	電源	通信	データ処理	温度分布
3/26 03:02-03:13	内之浦	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
3/26 05:49-06:02	マスパ ロマス	異常と 推定される	発生電力低下	異常なし	異常なし	一部に温度上 昇または低下 あり
3/26 07:31-07:44	マスパ ロマス	異常と 推定される	日陰	異常なし	異常なし	同上
3/26 09:52-10:04	ミンゲ ニュー	異常と 推定される	発生電力低下 (日照だが バッテリー使用)	異常なし	異常なし	同上

3.4 事象発生後の地上観測の状況(1/3)

- 4/1深夜: ASTRO-Hの軌道周辺の全11物体分の軌道情報がJSpOC*より公開された。
- そのうちの2物体(41337、41442)についてはJAXAも軌道を特定している。
- 11物体の軌道を逆伝播すると、ある時間帯で一点に集まる。



* JSpOC: 国防総省戦略軍統合宇宙運用センター; Joint Space Operations Center